

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ステラ			
○保護者評価実施期間	令和 7年 4月 1日		～	令和 8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数)	1名
○従業者評価実施期間	令和 7年 4月 1日		～	令和 8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 26日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業運営(活動の立案、工夫、取り組み等)を職員が一体的になり取り組んでいる 職員一人一人が能動的に動き、常に連携を図ることでより良い事業運営を常に意識している	活動内容を立案する際、偏りや固定化がないように様々な工夫を取り入れている。児童の特性に合わせた内容、楽しみながら参加でき、且つ効果的に作用する内容を日々検討している。 職員それぞれが持っている専門性、得意分野を活かし、職員間で連携、助言を行っている	職員一人一人が自己研鑽を怠らずに行い、より良い事業運営を目指し、支援に対する高い志を持った運営を目指していく。具体的には、専門的な外部研修に積極的に参加、送り出しを行っていく
2	家庭・学校・関係機関との連携 保護者とは利用時の出来事の共有、学校とは学校生活における気になる点などの共有に力を入れている 家庭・学校・ステラでの各々の場面での児童の様子を共有する事でそれぞれの強みを活かしたサポートができるように連携を図っている	学校迎え時、担任、ヘルパー等の教育関係者から、その日の出来事や気になる事を聴取している。学校側に対する積極的な関わりの中で信頼関係構築に努めている。学校からの申し送り内容等を保護者も一緒に共有する事で、普段は見えない学校の様子がわかるように助言を心掛けている	学校や担任によっては、思うようにコミュニケーションが取れない所もある。そのような環境であっても、工夫をしながら、どのように連携していけるかを模索していく。学校、担任に左右されずとも、連携ができる工夫を常に行っていく
3	所在している地域との関わりを積極的に行っている 児童センター、学童クラブ等と交流を行い、障がいの有無に関わらず児童一人一人が地域の一員として主体的に関われるよう、地域との繋がりを大切にしている	活動内容に「地域交流」を取り入れ、地域の児童センターに積極的に足を運んでいる。児童センターでは、放デイだからと特別に扱ってもらおうのではなく、同じ地域の子どもとして、全員が同じルールの中で利用できるように取り組んでいる	所在している地域だけでなく、所属している児童の小学校区の児童センターにも積極的に足を運ぶ必要がある。様々な児童センターで地域の子ども達、地域のルールを経験する事で、更なる社会性向上を目指したサポートを行っていきたい

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニング等の実施	保護者からの質問等に管理者が中心となり、回答や助言を行っている。モニタリング、送迎時の申し送り等、様々な場面で療育に関する話を行うことが多い 児童の成長に伴い、支援の思い、見えている課題等を含め、家族へ伝えたりすること、関わり方へのアドバイス等、情報共有の場を積極的に設けていく事を考える	ペアトレの実施には至っていないが、全保護者向けに情報提供の場として「活動報告会」の開催を検討中。次年度内では実施ができるよう取り組んでいく その他、年齢によって生まれてくる課題、個人の特性による課題等、様々な着眼点の中で家族支援プログラムの運営を検討していく
2	児童発達支援の利用児の確保	多機能型として運営しているが、利用児の登録が放デイ寄りになっている。児童発達支援から放課後等デイサービスに向けた切れ目のない長期的な関わりを行う為の関わりが少ない状況	放デイのみならず、定員に空きが出た際は児童発達支援の児童も積極的に受け入れていき、未就学から就学に向けた成長や課題の共有、安定した環境の提供を行っていきたい
3	第三者による外部評価の導入	以前より外部評価の導入を検討しているが、未だに導入をすることができていない。導入に向けた段取り等を含めて、日々の業務の効率化を図りつつ、早期の導入を進めていく必要がある	第三者による外部評価の導入について、情報収集をすると共に実際の導入事例等を元に並行しながら検討を進めていく